

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	四天王寺大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シテンノウジダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	経営学部
	担当教職員名・役職	金岡 敬子 准教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	19
	受入企業等数	14
	受入企業等名	あいおいニッセイ同和損保株式会社・野村証券株式会社・日本警備通信株式会社・成田法律事務所・羽曳野図書館・株式会社きんでん・羽曳野市役所・株式会社アド近鉄・株式会社関西マツダ・太陽金網株式会社・藤井寺市役所・富士ゼロックス大阪株式会社・税理士法人ゆびすい・株式会社ジャパンフットボールマーチャンダイズ
	インターンシップの分類	6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	①グループワークによる企業・業界の市場調査による研究成果発表会の実施。②地域イベントの企画・立案内容についてのプレゼンテーションを企業等の担当者・教員双方の前で実施。③就業体験中の業務従事が発生する具体的な問題解決能力育成のためのワークを実施。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目は、3年次夏学期に選択科目として開講し、15回の授業で事前学習を行ったうえで、夏季休暇中に5日間以上の就業体験を実施している。事前学習では、業界研究、ビジネスマナー・コミュニケーション能力の育成等をはかり、学生の主体性に基づくより高い就業意識の育成や専門分野への理解を促すことを目的としている。さらに、事後学習に自己評価・企業評価等を含む振り返りを実施し、職業観の育成にも力を入れている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している。3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に、学生が定期的に担当教員に連絡を入れ、日々の就業体験状況や業務内容について報告をすることを実施している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全15回の授業における事前学習の中で、インターンシップの趣旨や目的の理解、電話対応・言葉遣い等を含むビジネスマナー研修、企業理念等を含む企業研究、情報管理を含む法律上の知識等の理解、目標設定とスケジュール管理の方法に関する知識の習得等を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	学部内インターンシップ報告会、企業による評価票とインターンシップ日誌に基づいた個別指導と共に、就業体験と自らの学びがどのようにつながったのかを振り返る目的でレポート作成や口頭発表等を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ担当者がインターンシップ中に学生の体験先に向き面談を実施、あるいは頻りに通信手段を使用して学生の状況を把握しながら、事前学習の際に設定したインターンシップ中の目標に向けた達成度合いについて個別指導を行っている。

要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	アンケート調査による状況把握を行ったうえで、学生のインターンシップ前後の変容を測定するため、学修評価票による基本的ビジネスマナーやコミュニケーション力等のチェックテストを複数回実施し、客観的データの結果に基づき、学生への自己理解を促している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間 5日間～10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	5日間実施 11か所 10日間実施 3か所	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前にインターンシップの意義や目的を受け入れ企業にご理解いただいた上で、受け入れ人数や実施時期等について、プログラムの設計の段階から参画いただき調整を行っている。また、インターンシップ中や終了後にも受け入れ企業担当者と担当教員が面談を行い、受け入れに係る情報交換を実施することで、インターンシップに係る負担感の軽減に努めている。さらに次年度に向けたプログラム設計に向けた意見交換も行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/
問い合わせ先	大学等名	四天王寺大学
	担当部署名	経営学部
	担当者役職名	インターンシップ担当教員
	担当者氏名	金岡 敬子
	電話番号	072-956-3181
	メールアドレス	kanaoka@shitennoji.ac.jp